

# 平成31年度 福井県立福井南特別支援学校 スクールプラン

## 【校訓】

明るい子 強い子 働く子（地域で生活できる子）

## 【学校教育目標】

共生社会の形成に向けて、小・中・高の学びの一貫性を推進し、自立と社会参加に必要な知識と技能、態度を身に付けた生活力のある児童生徒を育成する。

## 【教育方針】

- ・児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえ、主体的な学びを尊重し、ライフステージに応じた学習指導・支援を系統的に進める。
- ・地域とのつながりを深める体験学習、交流及び共同学習、キャリア教育を推進し、就労支援の充実に努める。
- ・地域の園・学校や、福祉・医療・労働等の関係機関との連携を深め、特別支援教育のセンター的役割を果たす。
- ・児童生徒が安全・安心に過ごせる学校を目指し、健康・安全・人権に関する指導や危機管理体制の充実に努める。

## 【重点目標】

1 教育課程、学習指導、生活の指導（各学部・寄宿舎）				2 危機管理 （学校全体）	3 人権教育の推進
ライフステージに応じた学習指導・支援					
①指導内容の見直し ②カリキュラム・マネジメント ③学習評価の在り方					
（小学部）	（中学部）	（高等部）	（寄宿舎）		
一人一人の発達段階や興味関心を踏まえた「自ら思考し、判断し、表現する」場面を作り、児童がすすんで活動に参加する授業の工夫を行う。	一人一人の特性に応じた「自ら思考し、判断し、表現する」場面を作り、生徒が主体的に活動できるような授業の工夫を行う。	将来の自立に向けて生徒一人一人が持っている力を発揮し主体的に活動できるように、授業の工夫を行う。	寄宿舎生一人一人が将来の自立に向けて、主体的かつ豊かに生活する力を育むために、学校との共通理解を図り、生活環境を整え、支援方法の工夫を行う。	危機管理マニュアルに基づいた研修・訓練を通じ、教職員の危機管理に対する意識を高めるとともに、保護者への理解啓発に努める。	教育活動全体を通して、いじめ防止を含む人権教育の推進に取り組む。

具体的取組 （小学部）	具体的取組 （中学部）	具体的取組 （高等部）	具体的取組 （寄宿舎）	具体的取組 （学校全体）	具体的取組 （学校全体）
<p>a 児童の実態を把握し、付けたい力を明確化した授業づくりに取り組む。</p> <p>目標：児童の付けたい力を明確化した授業づくりの目標指数80%以上</p> <p>b 合同学習（音楽・体育・遊び・生単）について目標を確認し、意見交換を行って授業改善に活かす。</p> <p>目標：合同学習の評価について話し合う目標指数80%以上</p>	<p>a 生徒の思いや実態を把握し、付けたい力を明確化した授業づくりに取り組む。</p> <p>目標：生徒の付けたい力を明確化した授業づくりの目標指数80%以上</p> <p>b 授業研究会等で目標を確認し、支援方法を検討する。そこで得た意見を取り入れながら、授業改善に取り組む。</p> <p>目標：授業研究会等で得た意見を取り入れた授業改善の目標指数80%以上</p>	<p>a 生徒一人一人の目標や支援方法を検討し、保護者との共通理解を図る。</p> <p>目標：保護者との話し合いの目標指数80%以上。</p> <p>b 学習の成果や個人の考えをお互いに交換するなど、共に学び合う体験を重視した授業づくりに取り組む。</p> <p>目標：主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践の目標指数80%以上</p>	<p>寄宿舎生の実態を把握し、基本的な生活習慣が身に付くよう担任と連携して、環境整備や支援方法を工夫する。</p> <p>目標：基本的な生活習慣が身に付くような環境整備や支援方法の目標指数80%以上</p>	<p>a 情報管理・不審者対応も含めた危機管理体制の充実に図るとともに、訓練等を通じて具体的に個々の役割について理解を深める。</p> <p>目標：訓練時における個々の役割理解の目標指数80%以上</p> <p>b 保護者に学校の取組を周知するとともに、災害時引き渡し訓練等を通じ、災害時の対応について理解啓発を図る。</p> <p>目標：保護者の危機管理に対する理解啓発の目標指数80%以上</p>	<p>教職員が人権意識を高め、いじめ防止・早期発見に努めるとともに保護者や生徒との連携を図る。</p> <p>目標：いじめ防止の取組について、保護者の理解の目標指数80%以上</p>



### 学校業務改善のための取組

教育の充実を図りながら、適切な業務分担や会議の効率化に取り組み、業務改善を推進する。

### 関係機関等との連携

地域の関係機関との連携を深め、特別支援教育の理解啓発および児童生徒の健全育成を推進する。

### 地域との交流促進

児童生徒が生き生きと活躍できる共生社会の形成に向けて、交流活動の充実に努める。